

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取県立倉吉東高等学校

重点項目	大学進学	提出日	令和4年4月19日
------	------	-----	-----------

1 学校目標	
「倉吉東高のかたち」の理想に沿った様々な教育活動を充実発展させるとともに、主体的な学習者・21世紀の日本を支え、世界をリードする高い志を持った人材の育成をめざす。	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>・中部地区を代表する進学校として、国公立大学等を中心とした大学への進学に対応した教育課程編成に努め、生徒の着実な学力の伸長を図るとともに、生徒・保護者・中学校などからの期待にふさわしい進学実績を維持し、さらなる向上をめざす。</p> <p><数値目標> 中堅国公立大学以上合格者数 50名以上 難関大学・学部（薬学部）以上合格者数 20名以上 超難関大学（東京大学・京都大学）・学部（医学科）合格者数 5名以上</p>	<p>・国公立大学等を中心とした大学への進学に対応した教育課程により取り組んできたが、生徒の着実な学力の伸長を図ることができなかった。中堅国公立大学以上合格者数、難関大学・学部（薬学部）以上合格者数、超難関大学（東京大学・京都大学）・学部（医学科）合格者数の数値目標をいずれも達成できなかった。</p> <p><数値結果> 中堅国公立大学以上合格者数 17名 難関大学・学部（薬学部）以上合格者数 5名 超難関大学（東京大学・京都大学）・学部（医学科）合格者数 0名</p>
3 実施事業	
<p>【高等学校課事業】</p> <p>■学校連携チャレンジ・サポート事業</p> <p>3年生鳥取県高等学校合同東京大学対策講座（7月11日）、1年生超難関大学合同学習会（12月18日）を、鳥西生、米東生をはじめとする県下の超難関大学志望者とともに受講し、本校主催で研修を実施した。他校の生徒と学ぶことで多くの刺激を受け、本校超難関大志望者の学習意欲を高めた。</p> <p>■鳥取県版キャリア教育推進事業</p> <p>文理選択とキャリア形成（1年生10月20日実施）、学部学科研究と進路選択（2年生5月26日実施）のそれぞれについて、有識者や大学職員を招いて講演を行った。普段は触れることのない現在の社会の状況や大学の具体的な情報が生徒に伝わり、生徒の新たな目標設定や意識付けに強い影響を与えた。</p> <p>【独自事業】</p> <p>■学力向上推進事業</p> <p>・難関校ゼミ訪問（東大オープンキャンパス参加） 東大オープンキャンパスはコロナウイルス感染拡大防止のため、参加できなかった。1・2年次学術類型の生徒を中心に高い志を持たせるため、東京大学のWebオープンキャンパス（7月10・11日）へ参加することで、日本のみならず世界に貢献しようとする志を育成するとともに、超難関大学を第1志望校とする進学意欲の向上を図った。</p> <p>・第3学年勉強会 夏季休業中に実施する予定であったが、コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できなかった。</p>	

・進路指導資料の充実

大学の資料や最新の過去問題、共通テストを想定した問題を参考にすることにより、進路意識を高め、生徒が目標に向かい学習する一助となった。

・教職員の大学訪問

名古屋大学、九州大学等を訪問予定であったが、コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できなかった。

4 総合所見（成果・評価）

生徒の進路志望の多様化により、校内における取組だけで難関大学に向かうための学力向上を実現していくことには限界がある。本校生徒にとって、同県内の難関大学を志す他校の生徒の存在はとても刺激を与えてくれるものであり、学校の枠を超えたこの事業を契機に学力向上を図ることができている。

また、各事業を通じて、生徒たちはそれぞれの進路に向けた取組の方向性を再確認・修正する機会となり、さらなる進路実現の取組に意欲を高めることができた。

今後もこのような事業を活用することにより、生徒の学力向上はもちろん、教員の指導力向上にも大きく寄与するものと思われる。

※枚数任意